

講 義 要 項

授業科目		薬理学総論		担当者	木下 力
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後
	1 単位	15 時間	講義		1年次・後期
授 業 目 標					
薬理作用の基礎知識に基づき、薬物の特徴・作用機序、人体への影響及び管理について理解できる。					
単元名	目 標	内 容	時間	単位	授業方法
1. 薬理学とは何か	薬物の定義、薬理学の成り立ちについて理解できる。	1. 薬理学とは 2. 薬物の使用目的 3. 薬物療法における看護師の役割	2		講義
2. 薬が作用する仕組み(薬力学)	薬物が作用する仕組みについて理解できる。	1. 薬物受容体 1) 受容体の種類 2) 受容体と薬物の相互作用 3. 酵素 4. トランスポーター	2		講義
3. 薬の体内の挙動(薬物動態学)	薬物の投与経路やその後の各段階における挙動を理解できる。	1. 薬物の投与経路 2. 薬物の吸収 3. 薬物の分布 4. 薬物の代謝と排泄 5. 治療における薬物動態の指標	2		講義
4. 薬物相互作用	薬物療法における相互作用について理解できる。	1. 薬物動態的相互作用 1) 吸収における薬物相互作用 2) 分布における薬物相互作用 3) 代謝における薬物相互作用 4) 排泄における薬物相互作用 2. 薬力学的相互作用	2		講義
5. 薬効の個人差に影響する因子	薬物の効果には個人差があり、因子として年齢・性・妊娠・遺伝子などの影響があることを理解できる。	1. 個人差に影響する因子 1) 年齢 2) 性 3) 妊娠 4) 遺伝子	2		講義
6. 薬物使用の有益性と危険性	薬物の有益性と危険性を決める要因として用量・副作用・反復投与による影響について理解できる。	1. 薬物の用量による影響 2. 薬物の副作用 1) アレルギー反応 2) 腎毒性 3) 肝毒性 4) 変異原性と発がん性 5) 催奇形性と胎児障害 3. 薬物の反復投与による影響 1) 薬物耐性 2) 薬物依存	2		講義
7. 薬と法律	薬物の安全性を保証し、適切に使用するための製造・販売・使用等の法律を理解できる。	1. 医薬品に関する法律 1) 劇薬・毒薬 2) 麻薬・向精神薬・覚せい剤 2. 新薬の開発	2		講義
修得試験			1	1	

参 考 文 献 等	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進(3), 薬理学, 医学書院.
評 価	1. 単位修得試験
備 考	実務経験：薬剤師として、豊富な実務経験をもとに授業を行う。